

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.7(2017年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『マインド・コントロール』

岡田尊司

よくニュースで耳にする自爆テロリストたち。なぜ彼らは、みずからの命を捨ててまで恐ろしい殺りく行為に加担できるのでしょうか? そう、誰かに「マインド・コントロール」されているからですね。この本では、テロリストたちの分析をはじめ、人の心を支配するタイプ、支配されやすいタイプ、またマインド・コントロールから抜け出す方法などについても詳しく解説しています。

『自律神経どこでもリセット!』

ずぼらヨガ

崎田ミナ

作者は離婚などを機に精神の不調をきたし、漫画家を3年間リタイアしますが、ヨガによって心身の健康を徐々に回復しました。この本の「ずぼらヨガ」というネーミングは、会社のデスクでも、トイレでも、布団の上でも、「プチ不調」をいつでもどこでも簡単リセットできる、という意味から付けたそうです。運動嫌いな人でもなじみやすいメニューで、イラスト付きということもあって、すでに20万部以上を売り上げているようです。

『スペードのクイーン/ペールキン物語』

A・C・プーシキン

ロシアの近代文学の創始者と言われるプーシキンの「スペードのクイーン」は作曲家チャイコフスキーによってオペラ化され、宝塚歌劇団の演目にもなった傑作です。幻想的かつ怪奇な雰囲気も漂う作風は、これからの「肝だめし」の季節にぴったり(?)ですね。ほかにも、バルザックの『ゴリオ爺さん』やホフマンの『砂男』、ヘッセの『車輪の下』の新訳版が入荷しています。

図書館からのお知らせ

①読書感想文コンクールを実施します。

課題図書3冊、『ストロベリーライフ』『犬が来る病院』『フラダン』は図書館にあります。自由に選んだ図書でも応募できます。希望者は2,000字以内で8月30日(水)までに図書館へ提出して下さい。

②長期貸出実施中です。返却は8月30日(水)です。マンガは除きます。

③夏休み中の開館日 全て9時から13時 7/21(金)~31(月)、8/21(月)~25(金)です。(期間中の土・日曜日は閉館)

人類最古の物語「ギルガメシュ叙事詩」の絵本3冊が入荷しました。

粘土板にくさび形文字で書かれた、文字で書かれた文学としては世界最古(4千年以上前)の古代メソポタミアの物語です。神と人間の混血であるギルガメシュ王の冒険と旅を、チェコの作家・ゼーマンが絵本にしました。

『聲(こえ)の形』のマンガとDVD、入りました!

ガキ大将の将也は、聴覚に障害を持つ転校生の少女・硝子に興味を持ちます。しかし、二人のコミュニケーションがうまくいかず、分かり合えないまま、硝子はある日転校してしまいましたが・・・昨年映画化もされた、女流漫画家の大今良時による人気作品です。なお著作権の関係で、全てのDVDは図書館内でのみ視聴可能です。

『ディズニー・ショートフィルム・コレクション』(DVD)

ディズニーの短編映画の傑作集です。最新の『アナと雪の女王/エルサのサプライズ』をはじめ、アカデミー受賞作など全12編を収録しています。短いので、例えば補習の空き時間などを利用して視聴できますよ。

『共謀罪の何が問題か』高山佳奈子

国内外の法律家や人権問題の専門家から反対されていた、いわゆる「共謀罪」。刑法の専門家である筆者が、その問題点を分かりやすく解説します。筆者によれば、この法律が「テロ対策のため」という政府の説明は「ウソ」で、ごく普通のひとが冤罪(えんざい)で逮捕される可能性は十分にあるとのこと。ぜひ一読をおすすめします。

『大学図鑑! 2018』 監修・オバタカズユキ 絵・しりあがり寿&和田ラヂヲ

この本のキャッチフレーズは「広告、建前、裏取引一切なし!」で、全国81大学が詳しく、かつ「ぶっちゃけトーク」風に解説されています。編集方針として、取材スタッフが直接大学に出向いて学生たちの「生の声」を聴き、それをまとめるというスタイルを取っています。よって、学生たちの「本音」が色濃く反映されていますが、同時にそれらは彼らの「主観」であることにも本を読む上で留意しておくべきでしょう。



今号のひとこと

Unus pro omnibus, omnes pro uno

1人はみんなのために、みんなは1人のために。

英訳の「one for all, all for one」の方が有名になっているようですが、もともとはラテン語で「ウヌス・プロ・オムニブス、オムネス・プロ・ウノ」と読みます。1618年に始まった宗教戦争(三十年戦争)に関連して、キリスト教の指導者が集会を開きましたが、その中で歴史上初めてこの言葉が読み上げられました。その後この言葉は魅力的な標語として世界中に広まり、デュマの小説『三銃士』やスイス国のモットーとしても使われています。

ちなみに、omnibus(みんな)という語は、映画などの「オムニバス形式」(独立した複数の作品を集めて一つの作品としたもの)や、乗り物の「バス」の語源でもあります。